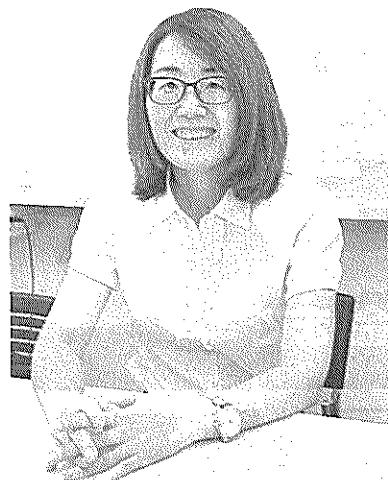


切れ目なく母親支援



中村朋子さんは「出産前後も含め、若い人から高齢者まで地元の人が相談しやすい診療所を目指したい」と語る=中央市山梨大医学部



10月3日に開業する
「このはな産婦人科」
=甲斐市西八幡

甲斐で来月 産婦人科診療所開業

甲斐市が進める「妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援」の拠点となる産婦人科の診療所が10月に開設される。子育てしやすい環境を整えようとして、市が山梨大医学部を通じて誘致した。開設後は女性医師が出産前後の診療や相談にあたり、分娩は山梨大医学部付属病院が受け持つ。

フィンランドで「切れ目ない支援」を提供するネウボラ（助産の場）に倣つた

「甲斐市版ネウボラ事業」

構成する。

市健康増進課によると、2014年度の調査では出産の一環。「このはな産婦人科」（甲斐市西八幡）は10月3日に開設され、出産後の母親の体調面や精神面でのケアに重点を置く。医師25年目で山梨大産婦人科助教の中村朋子さん（48）が

生産を出した母親の2割が産後うつの可能性があり、その後うつの3割は約2カ月後も改善が見られなかった。また

今年1～3月に出産した母

親に聞いたところ、57%

産後に「睡眠不足」「イラ

「疲れ」「涙が出

る」などの不調があり、つ

らかた時期は多くが出産直後と答えた。

市は法律で義務づけられ

た1歳6カ月児と3歳児の

健診に加え、4カ月児、2

歳児の健診を独自に行う

力したい」と話す。

診療所は鉄骨2階建てで

集団指導をする「産後ケア

室」や授乳トラブルに対応

する「乳房チェック室」、

手術室などを備える。胎児

の様子が分かる超音波診断

装置など高額な医療機器は

市が国の補助を使って購入

したものを受け持つ。

分娩 자체は近くにある中

央市の山梨大医学部付属病

院が受け持つ分業方式「セ

ミオーブンシステム」を

採用。診療所の医療情報

は病院と共有されるとい

う。

産後に面談重ねてケア

が、こうした出産直後の母親のケアは空白になりがちだった。このため、「このはな産婦人科」に週1回、産後1カ月半の母親と乳児の集団指導や交流の場を設け、必要な場合は医師の個別指導につなげていく。中村さんは「核家族化が進み一人で悩む母親が多い。出産直後に面談を重ねて産後うつの早期発見や授乳に関する悩みの解決に向けて努力したい」と話す。

診療所は鉄骨2階建てで集団指導をする「産後ケア室」や授乳トラブルに対応する「乳房チェック室」、手術室などを備える。胎児の様子が分かる超音波診断装置など高額な医療機器は市が国の補助を使って購入したものを受け持つ。

分娩 자체は近くにある中央市の山梨大医学部付属病院が受け持つ分業方式「セミオーブンシステム」を採用。診療所の医療情報は病院と共有されるとい

う。

（平畠文洋）